

带状疱疹ワクチンについてのご案内

50歳以上の方は接種可能ですので、接種をお勧めします。

带状疱疹とは

体の片側の一部にピリピリとした痛みが現れ、その部分に水ぶくれを伴う赤い発疹が出現する病気です。水ぼうそう（水痘）に罹ると治った後もそのウイルスが体の中に潜んでいて、免疫力が落ちた時に発症します。日本人成人の90%以上が带状疱疹になる可能性があり、80歳までに3人に1人が発症すると言われていています。特に50歳代から発症しやすくなります。

带状疱疹が頭部、顔面に出ると、目や耳の神経が障害され、めまい、耳鳴りなどの合併症、重症化すると視力低下や顔面神経痛など重い後遺症が残ることがあります。また带状疱疹が治った後も長期に痛みが残ることがあり、带状疱疹後神経痛（PHN）と言われていています。50歳以上で带状疱疹になった場合、約2割がこのPHNになると言われています。

带状疱疹の予防（ワクチン）

带状疱疹を予防するワクチンが2種類あり、各々長所と短所があります。

これまでは水ぼうそうの予防にも使われている水痘ワクチンを使用していましたが、2020年1月に新しい带状疱疹ワクチンである『シングリックス』が発売となりました。シングリックスは2ヶ月間隔で筋肉内に2回接種します。

当院ではシングリックスを推奨していますが、水痘ワクチンの接種も可能です。

シングリックスの带状疱疹に対する予防効果は、50歳以上の方で約97%、70歳以上の方で約90%と報告されており、水痘ワクチンよりも有効性が高いと考えられます。また、水痘ワクチンは生ワクチンのため、他のワクチンを接種する場合は、27日以上空ける必要がありますが、シングリックスは不活化ワクチンのため、6日以上空ければ他のワクチンを接種することができ、免疫抑制をきたす治療を受けている方などでも接種が可能です。シングリックスを注射すると、体の中で強い免疫を作ろうとする仕組みが働くため、多くの方に注射部位の痛みや腫れが現れますが、副反応の多くは3日以内に治まります。

シングリックスは2回の接種が必要で、水痘ワクチンと比較すると接種費用が高額となりますが、50歳以上のいずれの年齢層でも高い带状疱疹予防効果が示されており、带状疱疹後神経痛（PHN）の発症を減らす効果も期待できます。

	水痘ワクチン	シングリックス
ワクチンの種類	生ワクチン	不活化ワクチン
接種回数	1回	2回（2ヶ月後に2回目）
予防効果	50～60%	90%以上
持続期間	5年程度	10年以上
副反応	接種部位の痛み・腫れ・発赤 3日～1週間で消失	接種部位の痛み・腫れ・発赤 筋肉痛・全身倦怠感 3日～1週間で消失
料金	8,000円（税込）	19,800円（税込）×2回
長所	1回で済む 値段が安い	予防効果が高い 持続期間が長い 免疫が低下している方にも接種できる
短所	免疫が低下している方には接種できない 持続期間が短い (5年を超えると有効性が低下)	値段が高い 2回接種が必要 腫れや痛みが出やすい

効果の差は明らかですが、費用対効果（コスパ）と副反応を考え当院では以下の選択をお勧めしています。

- ◇ 带状疱疹に2回以上かかった方
 - ◇ 带状疱疹に1回しかかかっていないが、長引いたり痛みが強く辛かった方
 - ◇ 带状疱疹にかかった事のない、若い方
(ただし、ステロイドや免疫抑制剤（リウマチの薬など）を内服中の方を除く)
- シングリックス
- 水痘ワクチン